



RI会長 ゲイリー・C.K.ホアン
第2640地区ガバナー 辻 秀和



2014-2015年
海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第1829回例会

平成27年4月27日(月)

12:30～ 海南商工会議所4階

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング

「手に手つないで」

3. 出席報告

会員総数 48名 出席者数 31名
出席率 64.58% 前回修正出席率 77.08%

4. 会長スピーチ

会長 山東 剛一 君

みなさん、こんにちは。4月も最終週になりましたが、今月は雑誌月間でした。ロータリーの友の4月号では雑誌で知るロータリーというタイトルで特集が組まれています。それから近いうちにお手許に届くと思いますが、国際奉仕委員会から台湾彰化東南ロータリークラブ20周年記念式典出席のための訪問に関するFAXをご覧の上、一人でも多くのみなさんのご参加をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。お願いついでに、たんぽぽの会の催しが5月17日(日)に浜の宮ビーチで開催されます。天候に恵まれることは勿論のこと一人でも多くのみなさんのご参加をお願いします。ありがとうございました。



5. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山東RC 5月14日(木)→5月12日(火)
12:30～ ダイワロイネットホテル
(和歌山RCとの合同例会)
那智勝浦RC 5月14日(木)→5月14日(木)
12:30～ 職場訪問
(紀の松島巡り)
5月21日(木)→5月21日(木)
12:30～ ホテルなぎさや
5月28日(木)→5月28日(木)
12:30～ 座禅例会 海翁禅寺

○休会のお知らせ

和歌山中RC 5月1日(金)
和歌山南RC 5月22日(金)
和歌山東南RC 5月27日(水)

○5月のロータリーレート

1\$ = 118円

6. 委員会報告

○国際奉仕委員会 委員長 谷脇 良樹 君
6月24日から26日まで、台湾彰化東南ロータリークラブ20周年記念式典への参加について、配布のとおり、ご案内いたします。多くのご参加をお願いいたします。

○会報・広報雑誌・IT委員会 委員長 寺下 卓 君
4月は雑誌月間です。ロータリーの友を読んでください。また、創立40周年記念事業の本の寄贈について投稿したいと考えています。

○社会奉仕委員会 委員長 田中 祥秀 君
たんぽぽの会との交流会を5月17日(日)、浜の宮ビーチで行います。皆さんのご参加とご協力をお願いします。

7. 会員卓話 地区委員長会議等の報告

○社会奉仕委員長 委員長 田中 祥秀 君
地区の社会奉仕委員長会議が2015年2月7日(土)にルミエール華月殿で開かれ、出席いたしました。

【活動基本方針】

社会奉仕活動に注力しクラブの活性化とクラブの発展につなげよう。

- ・ロータリークラブの社会奉仕活動は「ロータリーの心臓の鼓動」
- ・奉仕の精神を地域社会のニーズ、シーズに応じて具現化してゆくのが課せられた使命
- ・ロータリーの評価は社会奉仕事業の結果のよる事が多い
- ・地域で効果的事業の実施により共鳴者も現れ会員の増加を招く
- ・クラブ会員が一致協力し、汗を流しての事業は会員の絆を深める効果を生み活性化に繋がる



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長: 山東 剛一 幹事: 中西 秀文 SAA: 山田 裕之

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp

②継続事業は更に見直し効果アップを致しましょう。

【活動計画】

- 1 高野山の「ロータリー100年の森林」協定再締結
- 2 識字率向上月間の活動
- 3 エイズ撲滅キャンペーン

○ロータリー100年の森林について

- 1 国際ロータリー100 周年記念社会奉仕プロジェクト
- 2 地区の社会奉仕委員会は世界遺産に指定された紀伊山地の霊場と参詣道の周辺のバッファゾーンの森林保護に助力を行い後世に残そうと立ち上がりました。
- 3 事業のテーマ
- 4 趣旨
- 5 募金額と植樹数
- 6 植樹の種類
- 7 管理
- 8 募金の積み立て
- 9 認証書
- 10 第2次協定締結
- 11 参考「ロータリー熊野の森」について



○職業奉仕委員会

委員長 魚谷 幸司 君

地区の職業奉仕委員長会議が平成 27 年 3 月 28 日(土) 泉大津にあるテクスピア大阪で開催され、出席いたしました。職業奉仕委員長の上松瀬洋さんからの講演が約 50 分あり、その後グループに分かれ活動報告等がされました。講演では「ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人の集まりです。ロータリーのロータリーたる所以は職業奉仕の実践です」



職業…生きていくために所得を得る手段で自分のためのもの

奉仕…世のため、人のためのもの

正反対と思える 2 つの言葉を合体させており、職業奉仕とは分かりにくいものですが「世のため、人のため、奉仕する心を持って職業を営むべし」といっている。日本の職業倫理を支えてきたものは武士道の精神である。

武士道…他者を力づくで圧倒することではなく、自分自身の心に潜む弱さに打ち克つ修練を重ねること。すなわち日本人の道徳であり、行動の美学である

- 1 東日本大震災の時の食料をより必要とする人たちに配ろうとする少年の話
- 2 ナボイ劇場建設に関わった日本人抑留者の勤勉実直な働きぶり
- 3 鎮痛剤を盗んだ少年に野菜スープを持ち帰らせた食堂の店主の結末は…

協力雇用主の会についてのお話

ロータリークラブとして刑務所上がりの人たちの
雇用の手伝い出来るのか否か。

○IM2組 新入会員オリエンテーションの報告

田岡 郁敏 君

3月22日に御坊商工会議所において第2640地区IM2組の新入会員を対象にしたオリエンテーションに参加してきました。当日は雲一つないいいお天気に恵まれ絶好のオリエンテーション日和というかゴルフ日和でした。参加者は山東会長、楠部代行幹事、地区ガバナー補佐として谷脇さん、新入会員として山田裕之さん、田中祥秀さん、そして私田岡の計6名でした。



最初に御坊東ロータリークラブ会長の小池佳史さんより、挨拶があり今日の会の趣旨などを話されました。その後ガバナー補佐で当クラブの副会長でもあります谷脇さんから「IM2 組の新入会員を迎えて」というタイトルでお話いただきました。なかで、ロータリーとロータリーのつながりという事でまず入会したクラブで出席し人脈を築き色んな事業に参加して自分の得意な分野を探して活躍してほしいという話がありました。またメイキャップはロータリーの醍醐味という事で積極的に他クラブの例会に参加し自クラブとの違いや特徴を発見しましたやはり人脈を築いてほしいという事でした。

また、谷脇さんの得意分野でもありますゴルフにたとえてゴルフは心の格闘技というせりふでパットは入ると信じていれば距離が長くても入るし、逆にどんなに短くても外れるかもと不安に思った瞬間にかたくなってパットが外れるという話が強く印象に残っています。また、最後にロータリー感を持つことを大事にしてくださいというお話でした。

谷脇さんのお話の後テーブルごとに各ロータリークラブの会長・幹事と新入会員とのフリーディスカッションがありました。私達海南東の3人は有田南ロータリークラブの会長・幹事さんとお話をするようになりました。会長の中善隆さんは葬祭業を営まれるロータリー歴15年の方で、幹事の中知哉さんは大変若い30代前半という事でした。まずお互いの自己紹介のあと中会長より有田南ロータリークラブの紹介がありました。メンバーは現在32名でピーク時の47～8名からはやはり減ってきているとのことでした。例会は毎週火曜日のお昼12時30分から1時30分までで出席率は80%から90%だそうです。服装も厳しい方もいるそうでスーツ着用とのことで着替えが大変だと話されていました。うちの出席率が今悪くて最近60%ぐらいと説明すると少し驚いた様子もありましたが、有田南の高出席率には実は出席免除者という方が10名いるという話を聞きました。どうやら高齢のメンバーにはそういった特典があるみたいで体調不良など申請すれば認められるそうです。この出席率に関してEクラブはパソコンからの申告のみで100%が多いがやはり顔を合わせる出席に値打ちがあると力説されていました。そして例会を欠席した時のメイキャップですがやはりビジターも年々減ってきているそうでもっとメイキャップしましょうという事でした。

ってくれるのです」。プロジェクトの一環として、マラリア発生の抑制を目的としたプロジェクトでは、部族の治療師を介して各家庭に何千枚もの蚊帳が配られました。「2006 年には毎週 1〜2 人の子どもがマラリアで命を落としていました」とスコットさんは振り返ります。「しかし、ロータリーが 2 万 5,000 枚もの蚊帳の配布を支援してくれて以来、9 カ月間、マラリアで命を落とした子どもはいません。死亡率は 90% 以上も減少したのです」

看護学校の設立

数年前、ジェームズ・ジェムソンさんとスティーブ・ウォルフさんの二人の起業家がこの地域でゴリラを追跡しているとき、スコットさんと出会いました。スコットさんから看護学校の必要性について聞いた二人は、看護学校の計画、設計、建設の費用として 65 万ドル（約 7,600 万円）以上もの資金を寄付。これによって、2013 年 11 月、ウガンダ・ブウィンディ看護学校が開校しました。両氏はさらに、ブウィンディ病院で働く正看護師のジェーン・アニャンゴさんをスコットランドのエディンバラにあるクイーンマーガレット大学へと派遣しました。この大学で看護学の修士号を取得したアニャンゴさんは、ブウィンディ看護学校の主任指導教員となりました。また、この看護学校の全学生に対し、1 年分の教科書の内容が詰まった iPad も提供しました。

昨年は、国際ロータリー元副会長であるジェリー・ホールさんが看護教育者から成る職業研修チームを率いて 2 週間にわたり同学校のカリキュラムや指導要項の作成、運営体制の準備にあたりました。ホールさんはロータリーの理事だった頃、以前のプロジェクトを介してスコットさんとは面識があり、この病院の戦略計画コンサルタントを務めていました。ホールさんが所属するネバダ州のリノ・ロータリークラブは、ウガンダ・キヒヒ・ロータリークラブをはじめとする 19 のクラブと連携して 6 万 7,000 ドル（約 790 万円）を集め、この資金とロータリー財団からの補助金など合わせて 247,000 ドル（約 2,915 万円）が、同学校の備品、教室の机や椅子、実験設備のために役立てられました。職業研修チームが帰国すると、サンフランシスコ大学に所属する一人のチームメンバーは、同大が所有する大量のデジタル情報をアニャンゴさんが利用できるように手配。また、もう一人のチームメンバーは、看護学のカリキュラムが保存された USB メモリをブウィンディ看護学校に送りました。「これらのテクノロジーは、ウガンダには今までになかったもの」とホールさん。「私たちの滞在中、ウガンダ看護評議会の議長が開校式に参列し、このようなテクノロジーに非常に驚いていました」ホールさんはこう続けます。「可能性は計り知れません。研修を受けた看護師を集落や地方に派遣すれば、その土地で安全に出産を行い、子育て支援にも従事できる看護師が増えるはず。これは今までになかったことです」

包括的な教育支援をめざして

米国（メイン州）のケネバンクポートサイド・ロータリークラブは、2 年前、インドとパキスタンの国境近くにあ



る町、ビーカーネールで学校支援の活動を始めました。会員の 1 人であるローヒット・メータさんが現地の出身であり、知り合いがいたからです。現地のロータリー会員と連絡を取り、早速、4 つの公立学校に机を提供することになりました。新しい補助金をきっかけに最初の寄贈の後、もっと多くの机が必要だと要請を受けたクラブは、もっと大きな構想を練る必要に迫られました。ロータリー財団の新しいグローバル補助金を利用するには、物品購入だけでなく、根本的な問題に取り組むことが条件となっていたからです。会員たちは知恵を寄せ合い、机の寄贈というシンプルなプロジェクトから、多くの子どもに教育の機会を与え、教員研修も行うという大きなプロジェクトを立案しました。メータさんは、故郷を助けるこの補助金プロジェクトに心から感謝しています。「故郷のロータリアンたちと一緒に何か活動ができれば、と考えたのがはじまりでした」プロジェクトの範囲を広げる中で、いくつかの課題に直面したものの、その過程でいつも、現地の人びとが協力してくれました。「現地の人々は辛抱強く、必要な情報を集め、リクエストに応えてくれました。米国からインドを訪れ、現地の学校を視察したロータリー会員、コーネリア・ストックマンさんは、プロジェクトの計画にあたって、地域の現状を調べました。裕福な家庭は机や教室の整った私立学校に子どもを通わせていますが、それとは対照的に、公立学校では資金不足のため、生徒たちが地べたに座って授業を受けています。義務教育は小学校までとなっており、公立学校にも机があれば、もっと多くの生徒が学校に通い続けるだろうと地元の教育専門家は話します。

より大きな成果を

インドと米国のロータリークラブのほか、学校関係者、地域社会のリーダーも集まって、学校管理委員会を結成し、各校が何を一番必要としているか話し合いました。通学していない子どもがたくさんおり、中には一度も学校に通ったことのない子どももいることがわかったと、通学日を週 3 日制に変更。こうして通いやすい体制を整えたほか、授業のない日は先生が机を使って教授法の研修を受けることになりました。生徒だけでなく先生もサポートすることにしました。生徒 1,685 人分の机を提供します。また教員 240 人に研修を行って、基本科目以外にも、生徒が自信をつけ、リーダーシップスキルやコミュニケーションスキルを身に付けられるような授業方法を教えました。前回の机の寄贈だけで、生徒の成績を 23 パーセント上げることに成功しており、今回のグローバル補助金プロジェクトではさらに高い成果が期待されています。

4 月は雑誌月間です
(Magazine Month)